

社会福祉と良心 基礎参考資料

同志社大学
木原活信

良心とは何か①

- Conscience con+science
- コンスキエンティアconscientia ラテン語
- スーネイデイシスσυνείδησις (ギリシャ)
⇒「共に知る」

誰と知る?・・・他者 or 神(超越者) or 自分
一般的には、「善なる心 善に基づいてふるまうこと」「何が善であり悪であるかを知らせ、善を命じ悪をしりぞける個人の道德意識」(広辞苑)

良心とは何か②

日本の「良心」： 孟子の「良知良能」の概念

- 中村正直 スマイルズの翻訳

使用例)良心の呵責 日本の場合、やってしまった失敗、間違いへの内省として生じる

哲学:ソクラテス「ダイモニオンの声」

カント「私の内にある道德法則」

- 欧米のほうが内面的、人格的
- 自問自答 もう一人の自分 とともに

良心とは何か③

- 個人的なるものと、社会的なるもの
- 社会のなかのマイノリティの文脈で発露
- Compassionと関連 社会問題への眼差し

- 例)社会福祉従事者の数:日本のなかのキリスト教、アメリカのなかのユダヤ教

「良心」を語るということ

- 良心は客観的に対象化されるものなのか？
- 語りにくいもの 気恥ずかしさ 愛と正義
- 良心を語る、主体である「私」は隠れることができるのか？⇒良心を語る私は、あらゆる事象から自由であるのか？
- 「私」語り 私の原点
- ⇒<http://www.geocities.jp/kihara0918/>
- ⇒<http://joe0918.blogspot.jp/>

キリスト教と良心

果たしてそれは連続線にあるものなのか？

- 「キリスト教は人間の良心に対して積極的な価値を付与しません。良心は、人間の内部の力によって担保されているわけではありません。あくまでも外部からの、神の啓示によって人間の良心が呼び出されるのです。神からの召命を抜きに人間の良心は成立しません。」 佐藤優氏の言説
- 聖書のなかの「良心」 30回記載
 - 「律法と良心」ローマ2章
 - 「きよい良心」使徒23章1節；使徒24章16
 - 「邪悪な良心」ヘブル10章21節；ヘブル9章14節
きよめられる必要がある
 - 「弱い良心」Iコリント8章7節 Iコリント9章28節、29節

キリスト教と良心

カトリックとプロテスタントでは？①

- カトリック「良心は人間の最奥であり聖所であって、そこでは人間はただひとり神とともにあり、神の声は人間の深奥で響く。」(「現代世界憲章」16)
- 「良心の声は神からの心の声である」(第2バチカン公会議1962年-1965年)
- 「良心とは、本来的にいえば、能力ではなくしてはたらきである。」アキナス 『神学大全』 大鹿一正訳、188頁。
- 良心は「能力」ではなく、「魂の最奥に根ざしている、調和に向けての内なる設定」B. ヘーリング 『キリストの掟 I』 渡辺 秀他訳、181頁。

キリスト教と良心

カトリックとプロテスタントでは？②

プロテスタントの場合

近代の個の誕生、自我から強調された

聖霊(Holy Spirit)との関連は？内在する霊 超越した存在(神)との関係

祈りの姿勢 私と超越者(神)

ルターと良心 宗教裁判のときの言動

カルヴァニズムと良心原罪と「良心」の存在への疑い
例外的)クエーカー教徒と良心

- cf フロイトと良心

社会福祉の良心 欧米の場合

- 福祉実践行動の原動力、起爆剤となる
「良きサマリア人」スピリッツ ⇒
欧米福祉の源流 “キリスト教的良心”
主流派でなく、組織力もないときに生じる
ウエスレーと国教会 救世軍と国教会
ミュラーと国教会 クエーカーと国教会
Jane Addamsの例 ⇒以下詳細

社会福祉の良心 日本の場合

- 日本の場合 欧米キリスト教の影響
- 同志社「社会福祉」派or「良心派」の系譜
新島襄⇒山室軍平、留岡幸助、石井十次、
牧野虎次、賀川豊彦、中村遥、竹中勝男、竹
内愛二、嶋田啓一郎、金徳俊
当時の時代の状況との関係

善きサマリヤ人のたとえ ルカ10章25節から36節

10:25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどう読んでいますか。」27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」29 しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とは、だれのことですか。」

続き

10:30 イエスは答えて言われた。「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗どもは、その人の着物をはぎとり、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。31 たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。10:32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。33 ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこに来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、

続き

34 近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱してやった。35 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。』36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」37 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。」

注釈

- 律法学者、パリサイ派
- 祭司、レビ人
- サマリア人
- あわれみ スプランクニズマイ compassion

考察

社会福祉実践活動をする際のモチベーション、原動力として働くことがしばしばある。

•それは、社会問題(通常、これを社会悪)とみなして、それを見て、見ぬふりができないというような状況にあって、それを改善するために立ち上がるような行動様式である。社会福祉実践者(ソーシャルワーカーや社会事業家)では、ここに共通の型がみられる。特にある事業の先駆者と言われる人たちの共通のパターンである。

良きサマリア人類型の福祉事業家

- 石井十次 孤児、捨てられた子供たち
- 留岡幸助 犯罪者、非行少年たち
- 山室軍平 貧困者、売春婦
- 賀川豊彦 スラム街での抑圧された人たち
- ジェーン・アダムズ
- ジョージ・ミュラー 救貧法下の孤児
- ウイリアム・テューク 心病める友
- ドロシア・ディックス(Dix, Dorothea) 精神病院

応用問題:良心への批判的考察

- 慈善と偽善
- フロイトの場合
 自我の抑圧の概念
- ⇒精神症状の場合 良心の呵責、幻聴など
- 良心は絶対的基準なのか CF良心と聖霊
- 愛することができるのか